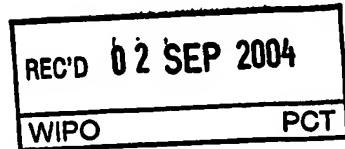


日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

12.7.2004



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 7月17日

出願番号
Application Number: 特願2003-275806
[ST. 10/C]: [JP2003-275806]

出願人
Applicant(s): いすゞ自動車株式会社

PRIORITY
DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1 (a) OR (b)

2004年 8月19日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川

洋

【書類名】 特許願
【整理番号】 414000267
【提出日】 平成15年 7月17日
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿
【国際特許分類】 G01N 30/02
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県藤沢市土棚8番地 株式会社いすゞ中央研究所内
【氏名】 柴田 慶子
【特許出願人】
【識別番号】 000000170
【氏名又は名称】 いすゞ自動車株式会社
【代理人】
【識別番号】 110000062
【氏名又は名称】 特許業務法人 第一国際特許事務所
【代表者】 沼形 義彰
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 145426
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

ニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置であって、
ニトロ多環芳香族炭化水素の異性体を分離する分離カラムと、
分離されたニトロ多環芳香族炭化水素をアミノ化する還元カラムと、
蛍光検出器と、
を備えるニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置。

【請求項 2】

ニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置であって、
ニトロ多環芳香族炭化水素の異性体を分離する分離カラムと、
分離されたニトロ多環芳香族炭化水素をアミノ化する還元カラムと、
検出物質中の妨害成分を分離する分析カラムと、
蛍光検出器と、
を備えるニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置。

【請求項 3】

分離カラムは、シリカゲル／C8カラムであることを特徴とする請求項1または2に記載のニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置。

【請求項 4】

還元カラムが、アルミナ／Pt-Rh還元カラムであることを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載のニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置。

【請求項 5】

ニトロ多環芳香族炭化水素の分析方法であって、
ニトロ多環芳香族炭化水素の異性体を分離カラムを用いて分離する工程と、
分離されたニトロ多環芳香族炭化水素を還元カラムを用いてアミノ化する工程と、
蛍光検出する工程と、
を備えるニトロ多環芳香族炭化水素の分析方法。

【請求項 6】

ニトロ多環芳香族炭化水素の分析方法であって、
ニトロ多環芳香族炭化水素の異性体を分離カラムを用いて分離する工程と、
分離されたニトロ多環芳香族炭化水素を還元カラムを用いてアミノ化する工程と、
検出物質中の妨害成分を分離する工程と、
蛍光検出する工程と、
を備えるニトロ多環芳香族炭化水素の分析方法。

【請求項 7】

分離カラムは、シリカゲル／C8カラムであることを特徴とする請求項5または6に記載のニトロ多環芳香族炭化水素の分析方法。

【請求項 8】

還元カラムは、アルミナ／Pt-Rh還元カラムであることを特徴とする請求項5または6に記載のニトロ多環芳香族炭化水素の分析方法。

【書類名】明細書**【発明の名称】ディーゼル粒子中のニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置と分析方法****【技術分野】****【0001】**

本発明は大気浮遊粒子状物質中のニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置と分析方法、特に、ディーゼルエンジンから排出されるディーゼル粒子中のニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置と分析方法に関する。

【背景技術】**【0002】**

ディーゼルエンジンの排氣中に含まれるディーゼル粒子は燃料や潤滑油の未燃成分が凝縮、凝集したものであり、有機溶媒に溶解する有機可溶性成分（以下SOFと略す）と、有機溶媒には溶解しない硫酸塩及び硝酸塩、元素状炭素、金属等の不溶性成分（以下ISOFと略す）が複雑に混合している集合体である。また、その組成については燃料や潤滑油、エンジン種類、運転条件等といった様々な影響を強く受けることが知られている。ジニトロアレーン等のニトロ多環芳香族炭化水素は、ディーゼル粒子中のSOFの中に含まれており、非常に微量でありながら、その発癌性の高さから、ベンゾ（a）ピレンに続いて、近年その分析方法が研究されている。

【0003】

代表的なニトロ多環芳香族炭化水素の分析法には、SOF分離の為の有機溶媒による抽出や分析感度を向上させるための濃縮・乾固、高速液体クロマトグラフー蛍光検出器や高速液体クロマトグラフー化学発光検出器等で高感度に検出するための前処理工程が開示されている（特許文献1参照）。

【0004】

特許文献2は、ジニトロアレーンを含む試料を導入する試料導入部と、試料導入部の後段に設け、ジニトロアレーンを還元する活性水素誘発型の金属触媒カラムと、前記金属触媒カラムの後段に設け、還元された成分を分離する液体クロマトグラフ用分離カラムと、分離カラム後段で分離還元成分を検出する検出部とからなるジニトロアレーン分析装置を開示する。

【0005】

特許文献3は、含窒素有機物を還元する還元カラムと、前記含窒素有機物を分離する分離カラムと、前記還元及び分離された含窒素有機物に、これを化学発光させて検出し得るように化学発光用の反応試薬を加える手段と、前記還元カラムを90～150℃に設定する手段とを含み、前記含窒素有機物を前記90～150℃の温度で還元する含窒素有機物分析装置を開示している。

そして、還元カラムは前記分離カラムの後段に配置され、還元カラムは白金黒還元カラムが使用されている。

【0006】

【特許文献1】特開2000-249633号公報

【特許文献2】特開平7-253420号公報

【特許文献3】特開2001-21497号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0007】**

ディーゼル粒子中に微量しか存在しないニトロ多環芳香族炭化水素の分析法において、蛍光検出によるものの感度は低く、定量分析が困難と言わされてきた。一般的に蛍光検出によるものの感度は、化学発光検出によるものの感度の10分の1と言われてきた。特に、ニトロ多環芳香族炭化水素を蛍光物質であるアミノ多環芳香族炭化水素に還元する還元カラムの還元効率が悪いことが大きな要因であった。しかし、化学発光検出においても、2系統の緩衝液の作製や管理が煩雑であり、そのため作業時間も長くなる上に、緩衝液のための反応ポンプ、反応槽、反応コイルなどの装置が追加され、試験装置が複雑になる問題

もあった。

そこで本発明では、ニトロ多環芳香族炭化水素を迅速、かつ高感度に分析できる高速液体クロマトグラフー蛍光検出器分析方法を提供する。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上述した課題を解決するために、本発明は、基本的手段として、ニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置であって、ニトロ多環芳香族炭化水素の異性体を分離する分離カラムと、分離されたニトロ多環芳香族炭化水素をアミノ化する還元カラムと、蛍光検出器と、を備える。

【発明の効果】

【0009】

本発明は、以上のように、ディーゼルエンジンの排気に含まれるディーゼル粒子中のニトロ多環芳香族炭化水素を効率良く、かつ高精度に分析する装置と方法を提供することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

図1は本発明によるディーゼル粒子中のニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置と分析方法の実施例を示す説明図である。

全体を符号1で示す分析装置は、メタノールの供給装置10、脱気装置11、供給ポンプ13を有し、脱気されたメタノールを混合槽20へ送る。同様に水の供給装置15、脱気装置16、ポンプ17を有し、脱気された水を混合槽20へ送る。

混合槽20で定量に混合されたメタノール水はオートサンプラー120へ送り込まれる。

【0011】

一方、分析対象であるディーゼル粒子中のニトロ多環芳香族炭化水素の試料は、以下に説明する処理工程により準備される。

ステップS10で、直径70mmのテフロン（商標登録）コーティングフィルタの初期重量秤量を行う。

次にステップS11で、ディーゼル粒子を70mmのテフロンコーティングフィルタ上に捕集し、温度25度、湿度50%RHの恒温室に少なくとも2時間以上入れてから粒子重量を秤量する。

【0012】

ステップS12で、そのフィルタを抽出ガラス容器に入る大きさにまるめて、ニッケルワイヤでほどけないようにしばり再秤量を行う。

ステップS13で、有機溶媒であるジクロロメタンを用いたソックスレ抽出を8時間以上行い、SOFを分離する。

ステップS14で、抽出液を濃縮装置用ガラス管に移し替えて、減圧溶媒濃縮装置に設置し、約1時間半で乾固させる。（残ったフィルタは、乾燥し、抽出した粒子重量を秤量する。）

【0013】

ステップS15で、高速液体クロマトグラフィー用のメタノール溶媒一定量（約0.5ml）で溶解した後、アルミホイルを蓋代わりに用いて、超音波発生装置内水浴に遠沈管の溶液が入った部分を浸せきさせながら、2～3分間超音波を発生させることにより、乾固したSOFを完全溶解させる。

【0014】

上述した前処理で完全溶解されたSOFは、分離装置100へ送られてニトロ多環芳香族炭化水素と、他の多環芳香族とを分離し、ニトロ多環芳香族炭化水素の試料110を得る。

このニトロ多環芳香族炭化水素を高速液体クロマトグラフのオートサンプラー120へ移送される。

【0015】

オートサンプラー120から送り出された試料は、恒温槽132により約40℃に保温してある分離カラム130で、1-ニトロビレン、1.3-ジニトロビレン、1.6-ジニトロビレン、1.8-ジニトロビレンの4つの物質のニトロ多環芳香族炭化水素に分離される。この分離カラム130は、シリカゲル/C8カラムが使用される。

【0016】

次に、このニトロ多環芳香族炭化水素を恒温槽142により約80℃に保温してある還元カラム140へ送り、ニトロ多環芳香族炭化水素をアミノ多環芳香族炭化水素に還元する。

この還元カラム140は、アルミナ/Pt-Rh還元カラムが使用される。

【0017】

この2つのカラムだけで、ニトロ多環芳香族炭化水素の上記4成分は分離し、蛍光検出器160による検出が可能となる。蛍光検出器160により得られたデータは、データ処理装置170に送られて、処理される。

ニトロ多環芳香族炭化水素の上記4成分を含んだ標準物質を用いて確認したところ、図2に示すように、上記4成分を分離・検出することを確認した。また上記4成分の含有量を変化させた標準物質において、定量的にも高精度で測定できることを確認した。

しかし、ディーゼル排ガス中にはニトロ多環芳香族炭化水素の上記4成分の保持時間と重なってしまう妨害成分があり、そのままでは定量するのが困難な場合がある。

【0018】

そこで、還元カラム140を通した後に恒温槽152により約50℃に保温してある逆相カラム(ODSカラム)150を通してさらに分離することにより、目的の上記4成分が妨害成分と重ならなくなり、蛍光検出器160およびデータ処理装置170による検出・定量が可能となる。

【0019】

なお、分離カラム130からODS分析カラム150の配列は、この配列に限らず、互に入れ換えることができる。

【産業上の利用可能性】

【0020】

本発明は以上のように、ディーゼルエンジンの排気中に含まれるニトロ多環芳香族炭化水素を高精度で分析することができるので、ディーゼルエンジンの排気の浄化技術の向上に利用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図1】本発明の実施例を示すフロー図

【図2】分離状態を示すクロマトグラフ

【符号の説明】

【0022】

1 ニトロ多環芳香族炭化水素の分析装置

100 ニトロ多環芳香族炭化水素と他の多環芳香族炭化水素の分離装置

110 試料

120 オートサンプラー

130 分離カラム

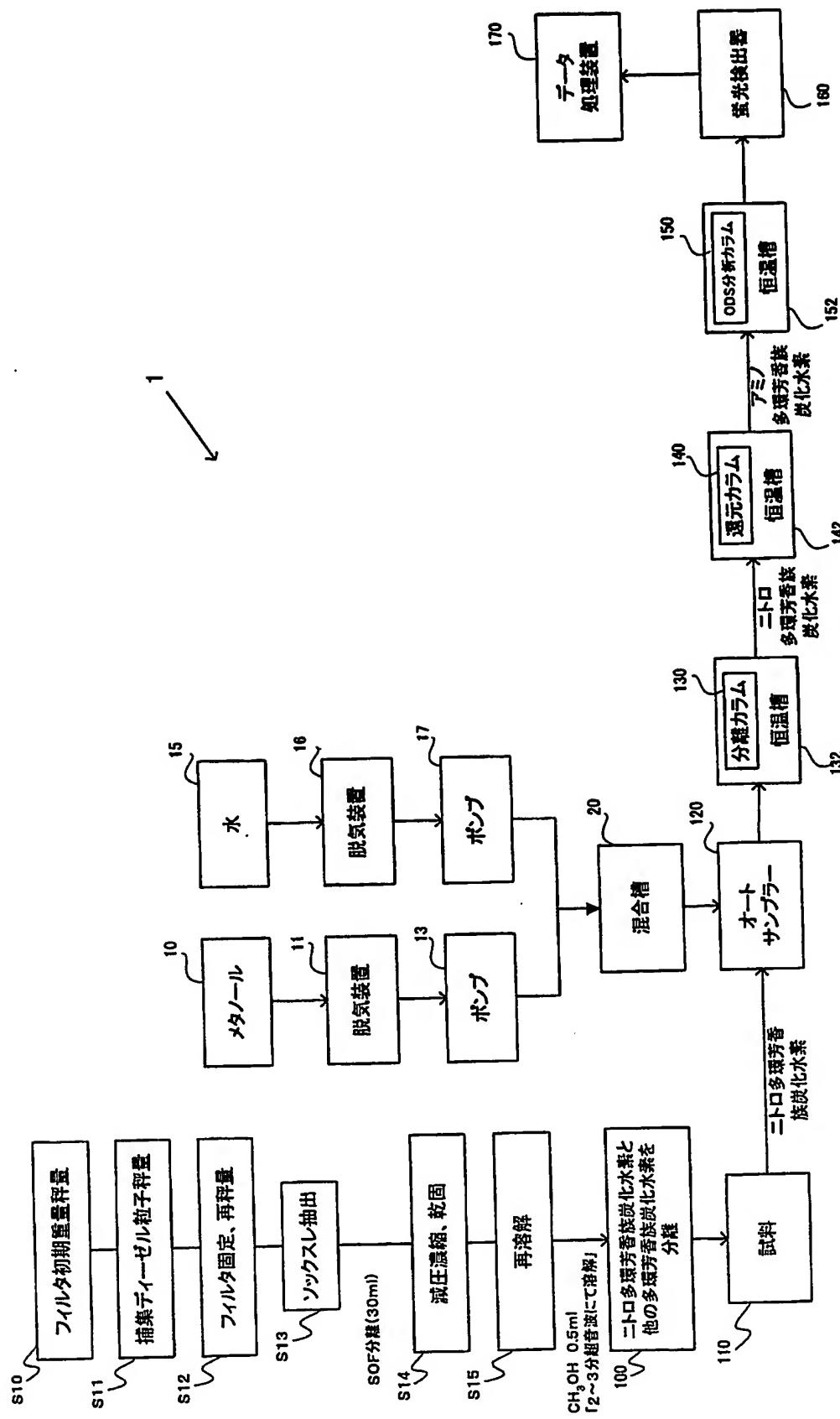
140 還元カラム

150 ODS分析カラム

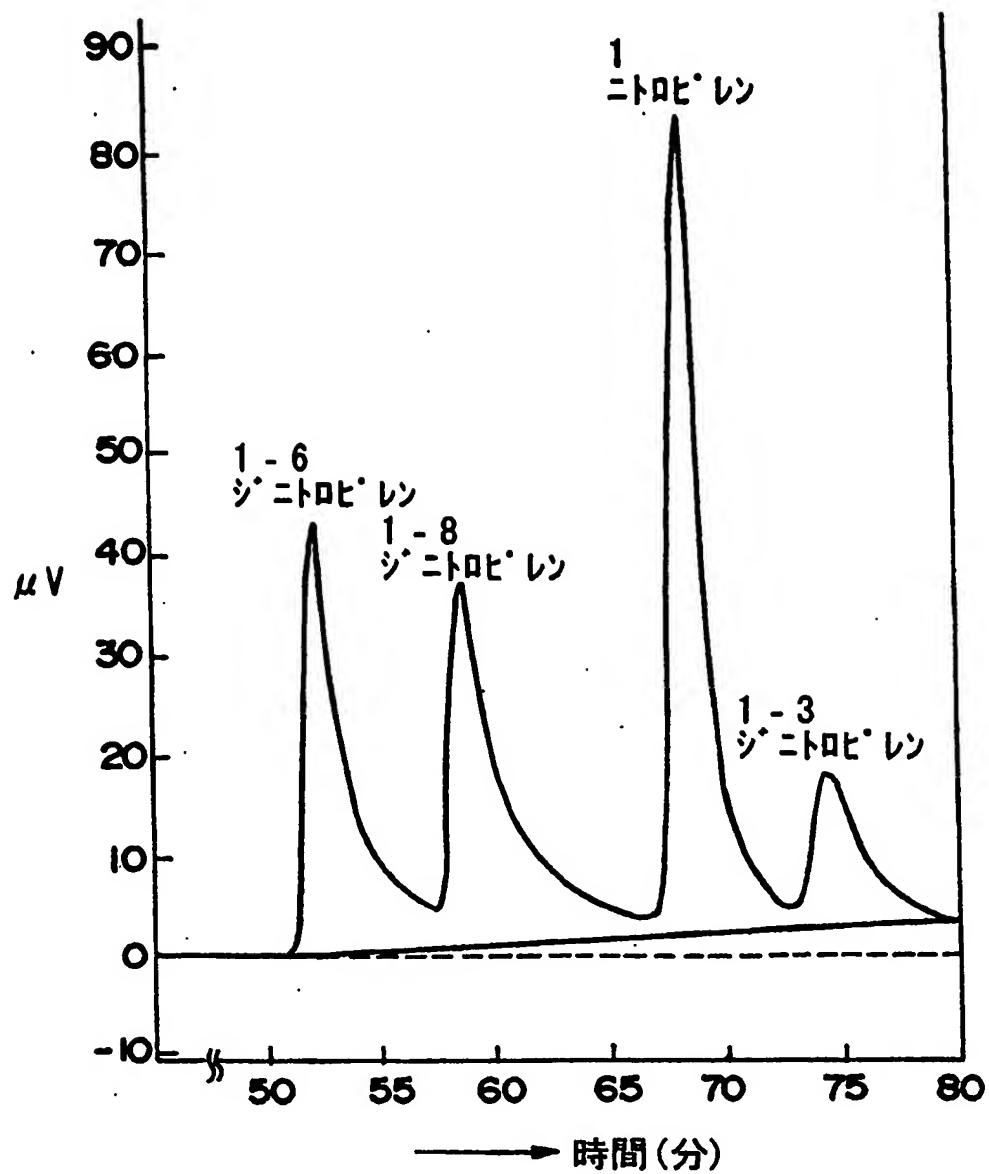
160 蛍光検出器

170 データ処理装置

【書類名】 図面
【図1】



【図2】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 ディーゼル粒子中のニトロ多環芳香族炭化水素を効率良く分析する装置と方法を提供する。

【解決手段】 ディーゼルエンジンの排気中に含まれるディーゼル粒子中から有機可溶性成分を溶媒で抽出する工程と、この抽出工程で得られた抽出液を濃縮・乾固する工程と、乾固して得られた物質をメタノールで溶解する溶解工程と、溶解液を高速液体クロマトグラフで分離・抽出する工程とを備え、高速液体クロマトグラフの分離工程が、シリカゲル／C8カラムによる分離工程と、アルミナ／Pt-Rh還元カラムによる還元工程と、ODSカラムによる分離工程を備え、その後に、蛍光検出器により、ニトロ多環芳香族炭化水素を定量する工程を備える。

【選択図】 図1

特願 2003-275806

出願人履歴情報

識別番号 [000000170]

1. 変更年月日 1991年 5月21日

[変更理由] 住所変更

住 所 東京都品川区南大井6丁目26番1号
氏 名 いすゞ自動車株式会社